

今回は腱鞘炎について
お話しをしていきます。

腱鞘炎の中でも
母指で起こる、ドゲルバン病について
考えていきたいと思います。

ドゲルバン病というのは
みなさんをご存知の通り
短母指伸筋腱と長母指外転筋腱での
腱鞘炎の事を言いますね。

テスト方としては
フィンケルシュタインテストがあります。

では、実際にドゲルバン病の患者さんが
来院された際に、皆さんはどのような施術をされますか？

多くの先生は、前腕の屈筋群や伸筋群の筋肉を
ほぐしたり、サポーターのような装具を使って固定をし
使わないように指導されるのではないかと思います。

しかし、こういった事をして
なかなか改善がみられなく、難渋してしまう
ケースが多いのではないのでしょうか。

そこで、先生自身が
一度試していただきたいことがあります。

それは、良い姿勢で
フィンケルシュタインテストを行うのと
悪い姿勢（猫背のような姿勢）で
フィンケルシュタインテストを行ってみて下さい。

いかがでしたでしょうか？
悪い姿勢で行った時の方が痛みが出るかと思います。

ということは
ドゲルバン病の治療を行う際には
前腕部だけではなく、脊柱や下肢も
重要になってくるというわけです。

そういったお話しをしていくと
話しが広がり過ぎてしまうので
今回は、上肢のお話しをしていきます。

前腕の筋肉を緩めるといったことは
先生は既にやられていると思いますので
神経で考えてみましょう。

疼痛部位が前腕遠位部外側となれば
神経で言うと、橈骨神経が関わってきます。

では、橈骨神経の走行を
思い出してみてください。

橈骨神経は腋窩の後外角を通り
次いで上腕の後区画に入り

橈骨神経溝に沿って上腕骨を螺旋状に
迂回します。

最後に上腕二頭筋外側の溝を通り
感覚神経の浅枝と運動神経の深枝に分岐します。

もう少し、部分的に見てみましょう。
(詳しいところは書籍などで見直してみてください)

上腕上部で上腕三頭筋裂孔を走行
(上腕三頭筋長頭、外側頭、上腕骨、大円筋に囲まれる)

上腕中部で橈骨神経溝を走行
(上腕三頭筋外側頭、内側頭に取り囲まれる)

上腕下部で上腕二頭筋外側の溝を走行
(上腕二頭筋、腕撓骨筋、上腕筋に囲まれる)

前腕上部で回外筋下部から再び現れる
(尺側手根伸筋、総指伸筋との間)

前腕下部で橈骨茎状突起のすぐ下方を走行する
といった形で上肢を走行しています。

となれば、上記であげた場所のどこかで
圧痛があれば、その部位の施術が必須となります。

ただ、神経というのは強い刺激を加えてしまうと
炎症が起きてしまい、悪化してしまう可能性が
ありますので、末梢に伸ばすような刺激で十分です。

筋に対してはアプローチをしているが
なかなか改善が見られない場合は

このような神経に対してアプローチを
してみてもいかがでしょうか。